

# 琵琶湖のコイヘルペスウイルス病の現状-Ⅱ

吉岡 剛

## ◆背景・目的

平成16年春に琵琶湖でコイヘルペスウイルス(KHV)病が発症し、4月～7月にかけて約10万尾のコイが斃死した。それ以降、琵琶湖では毎年KHV病の発症が確認されている。そこで、琵琶湖のコイのKHVに対する抗体価を測定し、今後のKHV病の発生についての検討を行った。

## ◆成果の内容・特徴

- 平成18年1月～12月かけて琵琶湖で漁獲されたコイ298尾の体長を測定し、血清を採取して、KHVに対する抗体価をELISA法で測定し、0.4以上をKHVに対する抗体を持つ(抗体陽性)と判定した。
- 体長40cm以上のコイは、年間を通じて高い抗体価を示し、全体の87.0%が抗体陽性であった。これらの個体は、一度KHVに感染し、生き残った個体であると考えられた(図1)。
- 体長40cm未満のコイでは、体長40cm以上の個体に比べると抗体価は低い状況で推移したが、6月に琵琶湖でKHV病が発生すると、抗体価が上昇する傾向が見られ、KHV病が終息した11、12月の抗体陽性割合は31.9%であった。

## ◆成果の活用・留意点

琵琶湖には、KHVに感染履歴のないコイが生息しており、今後もKHV病は発生するが、KHVに抗体を持つ個体の割合は増加しており、斃死数は減少していくものと考えられる。

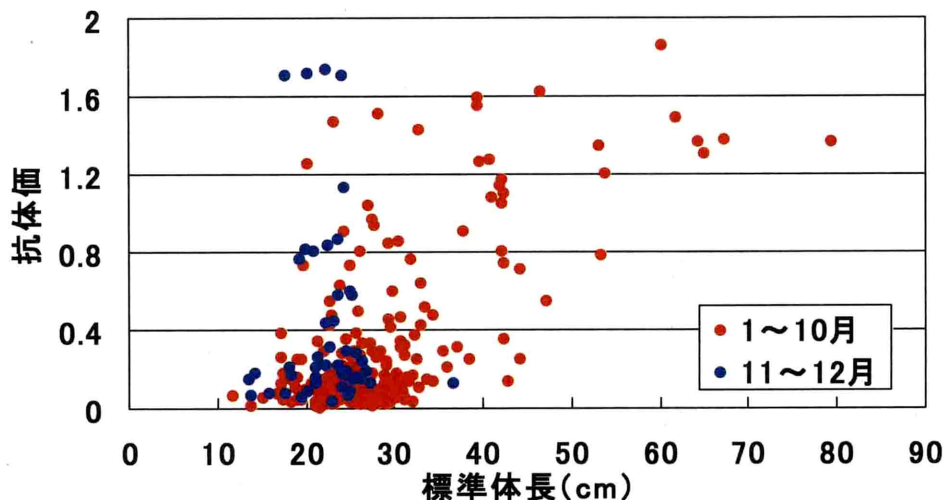


図1. コイの体長と抗体価の関係